

# こたえ合わせ

## 第1問

答え：打ち上げ筒

解説：打ち上げ花火を発射する筒は「打ち上げ筒」と呼ばれます。花火玉のサイズに合わせてさまざまな太さの筒が使われ、花火師がひとつひとつ丁寧に設置します。

## 第2問

答え：飢饉や疫病で亡くなった人々の慰霊

解説：1733年(享保18年)、大飢饉や疫病の犠牲者を慰霊するために両国川開きで水神祭が行われ、これが隅田川花火大会の起源とされています。

## 第3問

答え：ストロンチウム

解説：赤い炎はストロンチウム、緑はバリウム、黄色はナトリウムのように、金属の種類によって炎の色が変わります。これを「炎色反応」といいます。

## 第4問

答え：花火師(はなびし)

解説：花火玉を作り、打ち上げを行う職人は「花火師」と呼ばれます。「煙火師(えんかし)」という呼び名もあります。花火玉1つひとつを手作業で仕上げる、長年の修業が必要な技の世界です。

## 第5問

答え：新潟県

解説：長岡まつり大花火大会は新潟県長岡市で毎年8月2・3日に開催されます。1945年8月1日の長岡空襲の犠牲者慰霊と復興を祈念して始まった、歴史ある花火大会です。

## 第6問

答え：花火玉の中の火薬が四方八方に均等に広がるから

解説：花火玉の中には「星(ほし)」と呼ばれる発光剤が球形に均等に詰め込まれており、爆発のエネルギーで四方八方へ同時に飛び散るため、空で丸く開いて見えます。

## 第7問

答え：秋田県大仙市

解説：大曲の花火は秋田県大仙市で毎年8月に開催される国内最高峰の花火競技大会です。全国の花火師たちが技を競い合う伝統ある大会として知られています。

## 第8問

答え：橋や栈敷に仕掛けて滝のように流れ落ちる花火

解説：ナイアガラは橋や高い建物に仕掛けた仕掛け花火で、世界三大瀑布のひとつ「ナイアガラの滝」に見立てて光の滝を演出します。隅田川花火大会でも人気の演目です。

## 第9問

答え：約30センチ

解説：花火玉は「1号=直径約3センチ」が基準で、10号玉は直径約30センチになります。この10号玉が開くと、空に直径約300メートルもの大輪の花が咲きます。

## 第10問

答え：複数の花火を連続して素早く打ち上げる演出

解説：スターマインは「速射連発花火」とも呼ばれ、多数の花火を短時間に連続して打ち上げ、音楽に合わせて華やかに演出するものです。花火大会のクライマックスの定番です。

## 第11問

答え：江戸時代初期(17世紀初め)

解説：日本に花火が伝わったのは江戸時代初期とされています。徳川家康が1613年(慶長18年)に外国人商人の花火を見物したという記録が残っています。

## 第12問

答え：隅田川

解説：隅田川花火大会は東京都の隅田川沿いで開催され、川の上空に花火が打ち上げられます。川面に映る花火の美しさも大きな魅力のひとつです。

## 第13問

答え：大打ち上げ(クライマックス)

解説：花火大会の最後に行われる怒涛の連続打ちは「大打ち上げ」や「クライマックス」と呼ばれます。花火師たちが総力を尽くした圧巻の締めくくりで、観客が最も沸く瞬間です。

## 第14問

答え：花火玉を空中で爆発させて星を飛び散らせる

解説：割薬は花火玉の中央に詰められており、空中で点火されると爆発し、周囲に詰められた「星(発光剤)」を四方へ飛び散らせます。これによって大輪の花が咲きます。

## 第15問

答え：江戸時代から

解説：江戸時代、夏の川開きや花火見物には浴衣で出かけるのが庶民の楽しみでした。夕涼みを兼ねた風習として根付き、現代まで受け継がれてきた日本の夏の風物詩です。